

平成21年度「全国学力・学習状況調査」逗子市の分析結果（小学校）

〇はじめに

平成21年4月21日に「全国学力・学習状況調査」（以下「全国学力調査」という。）が行われました。この調査は、昨年に引き続き小学校6年生を対象に実施されたものです。実施内容は「国語」と「算数」の2教科で、それぞれ「主に知識に関する問題A」と「主に活用に関する問題B」がありました。併せて、子どもたちの生活実態の質問紙調査も行われました。

今回の調査は、児童の学力・学習状況を全国的な状況との関係において把握・分析するとともに、分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善に活用すること、本市の教育施策の成果と課題を把握しその改善を図ることを目的としています。

なお、ここでいう学力は全国学力調査で測ることのできた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

1 実施状況

- 調査実施日 平成21年4月21日（火）
- 実施教科
 - ①教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主に知識に関する問題（国語A、算数A）
 - ・主に活用に関する問題（国語B、算数B）
 - ②質問紙調査（生活習慣や学習環境等）

- 実施学校・学年・調査数 逗子市立小学校6年生482名



2 逗子市の調査結果の概要（小学校6年生） *（）内は全国の平均正答率との比較です

(1)国語A 主に知識に関する問題

- ① 国語Aの設問18問中、全国の平均正答率を上回るのは13問（内5%以上は4問）、下回ったのは5問（いずれも1%前後）でした。
- ② 学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の四領域にわたっての出題で、そのうち、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は良好でした。

(2)国語B 主に活用に関する問題

- ① 国語Bの設問は10問で、全ての設問において全国の平均正答率を上回る結果（内5%以上は4問）でした。
- ② 四領域にわたっての出題で、目的や意図に応じて自分の考えを書くことに課題が見られました。

(3)算数A 主に知識に関する問題

- ① 算数Aの設問は18問ありましたが、全国の平均正答率を上回ったのは14問（内5%以上は7問）で、下回ったのは3問、同率が1問でした。
- ② 全体としては、全国の平均正答率と同傾向の結果で、「数と計算」「量と測定」「図形」は良好でした。「数量関係」では百分率の意味についての理解に課題が見られました。

(4)算数B 主に活用に関する問題

- ① 算数Bの設問は14問で、全国の平均正答率を上回ったのは13問（内5%以上は8問）、下回ったのは1問（1%未満）でした。

- ② 領域別に見ての課題はありませんでしたが、判断した理由や、解決方法を記述する設問では正答率が他の設問に比べて明らかに低くなっており、課題が感じられました。

3 調査結果を踏まえた指導の改善

国語 言語力の育成が重視されている中、これまで以上に国語科の授業で培う力を明確にし、読み取ったことから自分の考えを深め、まとめるといった思考力・表現力を伸ばす指導を大切にしていきます。《具体例》○ノートをとるときに習った漢字を使う ○国語辞典や漢字辞典を使う習慣を付ける ○相手や目的に応じたスピーチの練習を日常的に行う ○様々な種類の資料から必要な情報を探し読み取る力を付ける ○短時間のうちに自分の考えを簡潔に書く

算数 作業や体験活動を通じて、数・量についての豊かな感覚を身に付けられるように支援します。また、「数学的な見方・考え方」の力を培うためには、子ども達の考えを引き出し互いに説明する機会をもつなど、算数的活動を通して試行錯誤することでより良い解き方を見出す指導を大切にしていきます。《具体例》○小数・分数の乗法・除法の計算の仕組みを理解する ○重さや面積を感覚的に理解する ○算数的活動から基本的な図形の性質を理解する ○定義や性質を理解し、発展的に考え、説明できる

* 以上の点について、ご家庭の協力を得て、日常的に児童に支援していきます。

4 質問紙調査の回答から見えてくること

地域教育力 自分たちが住んでいる自然が豊かな逗子への関心は高く、地域行事にも積極的に参加し、家族だけでなく近所の大人たちからも温かく見守られながら育てている児童が多いことが分かりました。この地域教育力がより多くの子の育ちに資することを期待します。そのために、新学習指導要領を視野に入れ、今後も、地域の協力を得て郷土の伝統・文化を学び、郷土愛を培っていきけるよう支援していきます。

自己肯定感 人の役に立ちたい、人の気持ちが分かるようになりたい、いじめはいけないという意識は高く全国と同程度でしたが、自己肯定感が持てる児童は7割で全国より低くなっています。自己肯定感を持つことは、児童が心の安らぎを得るための大切な要因の1つです。家庭との連携を深め、児童が充実感や満足感を持てるよう支援していきます。

学校生活 学校での生活は友達に会ったりすることが楽しく、「国語」や「算数」の学習については比較的、前向きに取り組んでいます。「総合的な学習の時間」はその目的やどんな力が身に付くのかはっきりと伝えながら、児童が意欲的に取り組むことができるよう、活動の工夫・改善を図っていく必要があります。新学習指導要領を視野に入れながら、これまでの学習内容を精選し、ねらいがより明確になるような課題解決学習の実践に取り組んでいきます。

家庭学習 宿題以外の家庭での学習時間は、「3時間以上学習する」と回答した2割の児童を例外として、全国に比較すると十分な状況とはいえない結果でした。基礎学力向上には、授業のあり方はもとより自主的な予習・復習も有効だといわれています。逗子市では、多くの児童が市内公立中学校に進学するという状況がある以上、いかに、義務教育終了時まで継続する「自主的な家庭学習」習慣を培っていくかを市内公立小中学校の共通課題と認識し、小学校・中学校・家庭の三者の連携を深めながら、指導方法の改善を図ります。